

=====

◇植物ストレス科学研究ネットワークメールマガジン vol.154◇

2023年5月12日号(第154号)

=====

———◆◆ INDEX ◆◆———

1. 大原サマーサイエンスインターンシップ開催について
2. 共同研究(者)紹介 =第98回(連載)=
3. 大学院進学説明会(オンライン開催)のお知らせ
4. 最近の研究成果について
5. 投稿のお願い
6. 編集後記

———◆◆◆◆———

1. 大原サマーサイエンスインターンシップ開催について

岡山大学資源植物科学研究所は、国内外の研究者と連携し、食糧・農業分野における地球課題解決に向けた基礎研究を推進しています。この度、その先端的な研究を体験するインターンシップを開催いたします。本インターンシップでは、当研究所で行われている研究紹介および正味3日間の研究体験を実施いたします。また、当研究所の創設者一族である大原氏が設立した企業からも、その最先端事業について講演を頂きます。

◎◎応募の締め切りは令和5年6月2日です。◎◎

**【対象】**

大学生・高等専門学校生など高校卒業レベルの理科の知識のある方  
先端農学研究を志している方

**【開催時期】**

令和5年8月29日(火)～9月1日(金)

**【開催場所】**

岡山大学 資源植物科学研究所

**【募集人数】**

10名まで(応募者多数の場合には選考あり)  
参加者には交通費・宿泊費を支給いたします。

詳細は以下のウェブページをご覧ください。

<https://www.rib.okayama-u.ac.jp/information/2023ossi/>

2. 共同研究(者)紹介 =第98回(連載)=

毎月連載している拠点共同研究の研究者の紹介です。今回は、立命館大学から海外のバイオ関連企業に移られた木村幸恵先生のご寄稿

を紹介致します。

「国際トレーニングコースをきっかけに」  
NAPIGEN, Inc. 木村幸恵

私が植物研を初めて訪れたのは、コロナ禍前の2019年9月末に開催された国際トレーニングコースに参加したときでした。解析中の変異体と野生型で一次代謝物を比較したい！でもGC-MSを触ったことがない！そんな私にとって、このトレーニングコースはサンプル調整からデータの解析方法まで学べる最適な機会でした。充実した講習内容だけでなく、夕方には、居酒屋、倉敷の夜散歩、BBQなどのイベントも企画されており、おかげで他の参加者ともすぐに交流を深めることができました。最終日には念願の大原美術館にも行くことができ、仕事で倉敷に来ていることをすっかり忘れるくらい満喫させて頂きました。

この国際トレーニングコース参加をきっかけにGalís先生と共同研究をさせて頂くことができました。サンプル調整のために2泊3日で植物研を訪問するたびに、Galís先生をはじめラボの皆さんがとても親切で、実験に行くのが楽しみでした。Galís先生の手厚いサポートのおかげで再現性のある面白いデータを取ることができたこと、本当に感謝しています。

国際トレーニングコース参加をきっかけに、もう一つ変わったことがあります。それは海外に対する想いです。トレーニングコース参加の3週間前に海外ポスドクを終えて帰国した私にとって、植物研での数週間ぶりの英語が飛び交う環境は、とても居心地の良いものでした。今振り返れば、英語が飛び交う環境でまた働きたいという想いがこの時から少しずつ強くなり、縁あって現在は米国バイオ企業で植物を使った研究に従事しています。「国際トレーニングコースに参加していなかったら今頃は」と考えると、植物研には色々なきっかけを頂いたなと思います。ありがとうございました。

### 3. 大学院進学説明会（オンライン開催）のお知らせ

植物研では大学院進学を検討されている皆様を対象に、オンライン大学院説明会を開催します。受験を考えている方も迷っている方も気軽にご参加ください。

参加を希望される方には事前申し込みをお願いしております。  
申し込み締め切りは、5月12日（本日！）です。

#### 【日時】

2023年5月19日（金） 13:00～16:00頃

2023年5月22日（月） 13:00～16:00頃

詳細および申し込みは以下のウェブページをご確認ください。

[https://www.rib.okayama-u.ac.jp/grdsh/Daigakuin\\_J/setsumeikai.html](https://www.rib.okayama-u.ac.jp/grdsh/Daigakuin_J/setsumeikai.html)

### 4. 最近の研究成果について

Matsushima, R., Hisano, H., Galís, I., Miura, S., Crofts,

N., Takenaka, Y., Oitome, N.F., Ishimizu, T., Fujita, N., Sato, K.  
Floury Endosperm 6 Mutations Enhance The Sugary Phenotype Caused By The Loss of Isoamylase1 in Barley.  
Theoretical and applied genetics, 136(4):94 (2023)  
Doi.org/10.1007/s00122-023-04339-5  
[研究成果情報] 種子中に糖類を高蓄積するオオムギの発見!  
[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id1080.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1080.html)

Sato, M., Seki, M., Suzuki, Y., Ueki, S.  
The Dataset of De Novo Assembly and Inferred Functional Annotation of The Transcriptome of Heterosigma Akashiwo, A Bloom-Forming, Cosmopolitan Raphidophyte.  
Data in brief, 48:109071 (2023)  
Doi.org/10.1016/j.dib.2023.109071  
[研究成果情報] 赤潮原因藻ヘテロシグマの発現遺伝子配列の網羅的解読と機能予測  
<https://www.rib.okayama-u.ac.jp/researchactivity/20230414-1/>

Mori, I.C., Matsuura, T., Otao, M., Ooi, L., Nishimura, Y., Hirayama, T.  
Application of Trehalose Mitigates Short-Styled Flowers in Solanaceous Crops.  
Journal of agricultural and food chemistry, 71(14):5476-5482 (2023)  
Doi.org/10.1021/acs.jafc.2c08479

Michikawa, A., Okada, M., Ikeda, T.M., Nagaki, K., Yoshida, K., Takumi, S.  
Phenotypic Effects of Am Genomes in Nascent Synthetic Hexaploids Derived From Interspecific Crosses Between Durum and Wild Einkorn Wheat.  
PloS one, 18(4):e0284408 (2023)  
Doi.org/10.1371/journal.pone.0284408

Kondo, H., Sugahara, H., Fujita, M., Hyodo, K., Andika, I.B., Hisano, H., Suzuki, N.  
Discovery and Genome Characterization of A Closterovirus From Wheat Plants With Yellowing Leaf Symptoms in Japan.  
Pathogens (Basel, Switzerland), 12(3):358 (2023)  
Doi.org/10.3390/pathogens12030358

##### 5. 投稿のお願い

本メールマガジンやWebサイトでは、植物ストレス科学の研究成果や研究に関する情報の共有を目指しています。

[\(http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/\)](http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/)

PSSNetメンバーの皆様の最新の論文、関連集会やセミナーの案内、人材募集などの共有可能な情報の投稿をお待ちしております。ご希望の方は、[pssnet-admin@okayama-u.ac.jp](mailto:pssnet-admin@okayama-u.ac.jp)宛に情報をお送りください。

また、メーリングリストへの情報提供も随時受け付けております。セミナーや講演会の開催など、お急ぎの情報は下記宛てにご投稿下さい。

[pssnetml@okayama-u.ac.jp](mailto:pssnetml@okayama-u.ac.jp)

(お送り頂く際には、PSSNet に登録しているメールアドレスからお願い致します)

## 6. 編集後記

皐月、岡山では麦秋を迎えました。冬作をしていない場所では田植えが始まっています。皐月の語源は諸説あるようですが、多くの辞書には「早月」や「早苗月」などが記載されています。いずれも田植えを含む農業に関するものだそうです。英語の5月 May は豊穡の女神マイア (Maia) から由来するのだとか (こちらにも諸説あります)。播種や育苗の重要な時期なので、豊作を願ってこの時期の名前を付けたのでしょうかね。

さて、このメルマガが配信される日の次の日 (5月13日) は、岡山大学植物研の一般公開が開催されます。実に4年ぶりの開催で、全研究所員が気合十分でお待ちしております。いろいろな企画がありますので、お近くの方は是非お越しください。

チラシや詳細情報はこちらから。

[https://www.rib.okayama-u.ac.jp/information/open\\_to\\_the\\_public2023/](https://www.rib.okayama-u.ac.jp/information/open_to_the_public2023/)

\*\*\*\*\*

「植物ストレス科学研究ネットワークメールマガジン」

■発行日 2023年5月12日

■発行元 岡山大学資源植物科学研究所  
植物ストレス科学研究ネットワーク (PSSNet) 委員会

■WEB サイト <http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/>  
メールマガジン登録変更・解除の手続きは  
<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/Registermember.htm>  
をお願いします。

\*\*\*\*\*

(このメールは岡山大学職員が配信しています)

---

pssnetml mailing list  
[pssnetml@okayama-u.ac.jp](mailto:pssnetml@okayama-u.ac.jp)